

気候同盟ヨーロッパ事務局

(環境政策)

平成20年1月29日 (火)

[面談者]

アンゲラ・ハニッシュ氏

(気候同盟職員、フランクフルト市議会議員)

近江まどか氏

(気候同盟職員)



○説明者 私の方から、皆さんのお越しいただいたことをとても感謝していることを伝えたいと思います。私の方からお話することが皆さんにとって少しでも興味深いことでありますことを願っております。

まず私のことを簡単に紹介いたします。私は、とても長い名前になるんですけども、ヨーロッパの地方自治体と熱帯雨林の原住民のための気候同盟という組織の広報担当者であります。そして、私は自分の仕事以外の時間を使っているわけなんですけれども、フランクフルト市議会の議員もやっております。それゆえに、私自身は実際の政策の中でどのようなことが実行できて、どのような問題、テーマが難しいのかということを実際体験している立場にあります。私は、今回は気候同盟の職員といたしまして、皆さんにご案内いたします。

気候同盟というのは、ヨーロッパの自治体のネットワーク組織になります。1990年に非公式な形で成立いたしましたして、1992年に実際に正式に成立いたしました。ドイツやイタリアなどの、そういった都市の地方自治体の代表者がその中に入っているだけではなくて、アマゾン地域の原住民の人たちもそこに加盟いたしました。今日におきましては、ヨーロッパ17カ国の1,400以上の地方自治体が私たちの気候同盟に加盟しております。

どのような国から参加しているかといいますと、それはもう最初の設立当時から参加している自治体が入っている国々ですね、例えばドイツやイタリア、オランダ、オーストリア、スイスなどになっております。またNGOや、その地域ですね、自治体ではなくて、何とか地方という、そういった地方も会員にはなっているんですけども、彼らは承認権であるとか権利は持っております。何かしらのことを決定する際の権利は持っておりません。

気候同盟の目標についてご案内いたします。

私たちの団体に加盟する自治体は、CO₂の二酸化炭素の搬出量を5年ごとに10%削減していくことをみずから義務づけております。最終的な目標というのは、遅くとも2030年までに1人当たりの排出量を半減化するということを決めております。基準年は1990年であります。

このような野心的な目標なんですけれども、小さな地方自治体は比較的簡単に達成することはできるんです。しかし、大きな産業を持っているような自治体は、このような目標を達成するのに非常に困難を伴っております。

さらなる気候同盟の目標なんですけれども、熱帯雨林の伐採を禁じて、そういったものからできている製品を購入せず、そして熱帯雨林を保護するということになります。この熱帯雨林の保護によりまして、そちらに住んでいる原住民の人たちの生活・文化を守ります。さらに、私たちはこのような原住民の人々が実行するプロジェクトやイニシアチブを支援することをめざしております。

これから、私たちは、なぜ地方自治体が温暖化対策を行わなくてはならないのかということについてお話しいたします。

人々は地方自治体の中で暮らし、そして、そこでエネルギーを消費します。エネルギーというのは、電力などの消費を通じまして、家庭の中や、また工場などで消費されます。地方自治体というのは、さまざまな部門におきまして政治的な決断を行うことができ、また影響を与えることができる存在です。

地方自治体というのは、この都市が将来、長期的にどのような形で発展していくかということに責任を持っております。また、市民や地域にある企業と直接コンタクトを持つことができ、そして人々に訴えかけることができる存在です。これは国などの上のレベルよりも地方自治体のローカルなレベルであるからこそできることです。地方自治体は、さらにその地域に住んでる人々の生活や暮らしを守らなくてはなりません。

地球温暖化なんですけれども、実際に地球温暖化の影響は顕著に出ております。ヨーロッパでは、2033年、大変な熱波が襲ったわけなんですけれども、死者は7万人になりました。そして多くは老人であって、十分な水分を近くに確保していなかった人々になります。このような熱波は山火事の発生ももたらしております。経済にも大きな影響を与えました。この熱波が訪れたときは、たくさんの電力が必要になったわけなんですけれども、発電所は十分な電力を提供することができませんでした。

また、多くの大雨が降るということも起こります。その場合は、河川のはんらんなどが起きるわけです。大きな川から小さな川まで大量の水が流れまして河川がはんらんしたり、また沿岸地域も台風が頻繁に起こることによりまして、大きな被害がもたらされております。地球温暖化対策というのは、地球を守る、環境を守るだけではなくて、経済の被害も抑えるという役割も必要となります。

ここで、私は地方自治体がどのような役割を果たすことができるのかについてお話しいたします。

私は、4つの部門に分けました。1つ目は消費者、そして、その地域の模範となる存在としてですね。またプランナー、計画者ですね、そして法令などの制定者として、供給者・提供者として、またコンサルタント、アドバイザーとしての役割です。

最初に消費者、そしてその地域の模範となるような役割としての地方自治体をお話しします。

これは何も地方自治体だけじゃなくて、ほかの政治のレベル、例えば独自の建物を所有している人たち等にもなります。私がここでご案内するのは、例の一部でありまして、具体的な例は、フランクフルト市の方からご案内されると思うんですけれども、例えば地方自治体はエネルギー消費をコントロールすることができます。エネルギー消費を抑えるためのさまざまな対策になります。

その例といたしましては、ドイツだけではなくて、その取り組みは各国に広がっているわけですが、フィフティフィフティというプロジェクトがございます。この取り組みは学校の

中では電力や暖房の消費が行われるわけなんですけれども、子どもたちは、実際、暖房を使うのを抑えたり、照明を小まめに切ったりということによりまして光熱費の削減を達成するわけです。その達成された光熱費の半分を学校側が受け取り、子どもたちは、そのお金を自由に遠足などに使うことができると、残りの半分は地方自治体が受け取ることができるというものです。

例えば、このようなこともあったんです。夏休みの間に、なぜか暖房費が上がっていると、夏は暖房必要がないのに。なぜかということを探したら、その教室の暖房がオンになっていたわけなんです。

また、省エネのための対策といたしまして、お金を使う、投資を行うこともできます。この投資なんですけれども、最初は大きなお金が必要になるわけなんですけれども、結局光熱費の削減は達成されるわけですので、4年、8年後に投資したお金が償却されるというような仕組みですね、これは例えばコントラクティ、日本では省エネルギー財団がやっている取り組みがあります。

また、地方自治体が公団としてエネルギーに配慮した建築物の建設を行って、それを賃貸することもできるわけです。その例がパッシブハウスになるんですけれども、午後から訪れるフランクフルト市の小学校は、ドイツで最初にパッシブハウス型で建設された小学校になります。

地方自治体には、たくさんの職員が働いています。そして職員に対するモビリティ・アドバイスですね。例えばジョブチケットであったり、自転車のインフラ整備になります。

最後のポイントになりますけれども、これは公正でエコロジーな調達ですね。地方自治体は、熱帯雨林でつくられた木材を調達しないだけでなく、あと、それぞれの器具のライフサイクルにおけるエネルギー消費を検討した結果、商品を購入するといった取り組みになります。

地方自治体は、プランナー、そして法令制定者としての役割も持っております。例えば地方自治体は条例をつくって、このように規定することができるんです。新しい土地の開発が行われるときは、そこに建てられる建物は必ずこのエネルギー基準を守らなくてはならない。また、その屋根には太陽光パネルをつけなくてはならない。こういった条例をつくることもできます。

また、地域熱供給網というものがあるわけなんですけれども、その地域熱供給網を必ず接続しなくてはならないといったような条例もつくることができます。また、地方自治体は将来を見越して短い距離で移動できる、職場と住む地域が短い距離で成立するような形で都市計画をすることもできるわけです。

また地方自治体の公共交通手段は自転車、そして徒歩の促進を行い、車の利用をできるだけ減らすようにすることもできるわけなんです。その1つに、駐車場マネジメントといわれ

るものもごございます。

また、地方自治体は電力の発電なども行うことができます。日本では、よく廃棄物焼却場などでの発電も行われているようなんですけれども、そういったところで電力を発電したものの、そして廃熱から熱の供給も行って、その熱をその地域に供給するといったような取り組みもできます。また、省エネのためのアドバイスを رفتたり、また、どれぐらいの電力を使用しているのかといったことをはかるための器具を人々に貸し出すこともあります。

日本の状況はちょっと異なるかもしれないんですけれども、ドイツでは、公共交通機関の一部を地方自治体が運営しております。それゆえに地方自治体を与える影響というのは大きいわけです。地方自治体は、何分にどれぐらいの割合で公共交通機関であるバスや鉄道を走らせるのかであるとか、料金体系をどのようにするのかということを決めることはできません。

また、公共交通機関の品質の確保ですね、それは例えば車体なんですけれども、清潔な車体とか、また、クーラーや暖房を取り入れたりといったようなものですね。あと、大きなイベントを開催する際は、イベントのためのチケットに公共交通機関を利用できるためのチケットも一緒に組み込むということも重要です。

地方自治体は、地球温暖化対策のための広報活動も行うことができます。地方自治体は、エネルギーの商品の使用のアドバイスをを行うことができます。フランクフルト市では、実際、今日、後ほどいらっしゃる方々が、このような市民に対するアドバイスをを行っているわけなんですけれども、地方自治体はモビリティ・アドバイス、交通アドバイスも行うことができます。フランクフルト市には、市民が簡単に気軽に訪れることができる交通アドバイスの事務所が設けられております。そこに行けば、人々は簡単によいアドバイスを受けることができます。

また、市内にある住宅供給会社や施工業者たちと共同プロジェクトなどを行います。彼らが、より地球温暖化対策に配慮したような形でお仕事をするように呼びかけるためのプロジェクトを行ったりすることもできます。

例えば、また助成金を出すこともできます。大きなお金だけではなくて、例えば省エネコンテストをして勝った人には何か賞金を渡したり、あと、こういったランプの交換のためのキャンペーンを行ったりといったこともできます。また、プレスリリースなどを通じたアクションであったり、さまざまな地球温暖化対策に関するパンフレットなどを利用して保護活動を行うことができます。また、環境デーなどのイベントの開催、展示会などを行うことができます。

これまでお話しいたしましたのは、地方自治体がどのような分野でどのようなことができるかということなんですけれども、実際、私たちの気候同盟に加盟している地方自治体に提供しているツールをご紹介します。

地球温暖化対策を実行するための手法や、さまざまな対策のアドバイス、また実行した結果の、地球温暖化対策の結果をモニタリングするためのツールなどを提供しております。また、ヨーロッパや国レベルでプロジェクトを実施しております。こういったところは、EU政府からお金が来たりしています。また、キャンペーンやアクションを実施したり、また国レベルや、ヨーロッパ、EUレベルでロビー活動を行ったりしております。熱帯雨林の原住民との共同プロジェクトも行っております。

ちょっと手法についてお話しいたしましょう。私たちは、クライメイトコンパスというものがあまして、これは10のステップで、その地方自治体の政策や組織の発展を達成していくというようなツールがございます。また、地方自治体の温暖化対策を進行させるために、こういったクライメイトコンパスを使って、実際、地方自治体のトレーニングを行ったりしております。

また、CO₂排出量をインデントリー、モニタリングを行うための、これは非常に複雑な仕組みになってるわけなんですけれども、地方自治体が簡単にモニタリングを行うためのツールを提供したりしております。このようなモニタリングのツールというのは、非常に難しいもので、結構開発に時間がかかっておりますが、プロジェクトの幾つかを簡単にご紹介いたしますけれども、地球温暖化対策の実行とですね、そもそも温暖化というのは、もう既に始まっているわけで、そのための対策、この2つを統合したツールを開発して、ある地方自治体に提供しております。

2つ目のプロジェクトなんですけれども、これは共同公共調達プロジェクトになりました。よりエネルギー効率を、例えばエネルギー効率のよい印刷機を購入すると、その際に、その地方自治体だけで購入するととても高くなると、それゆえに、幾つかの地方自治体と共同して購入して安くするというようなプロジェクトですね。

この次のプロジェクト、クライメイト・ツール・ボックスというものなんですけれども、地球温暖化、それぞれの分野のテーマごと、対象ごとに特化した地方自治体のためのアクションツールを集めたものになります。

そして4つ目のプロジェクトなんですけれども、現在、日本、ドイツ、そしてアメリカの地方自治体と一緒に地球温暖化対策の戦略を練っていかうというようなプロジェクトがあります。これは先ほどご案内いたしましたクライメイトコンパスですね、10のステップで、いろんなそれぞれの地方自治体の政策へ組織の発展を高めていって、そしてそれぞれが交流を通じて、それぞれのよいプロジェクトを学んでいくというような、そういったプロジェクトがあまして、日本からも40ほどの地方自治体が参加しております。堺市もぜひ参加していただければと思っております。後でご案内いたします。

また、幾つかのキャンペーンも行っておりまして、1つ目はクライメイトスターといいまして、この冊子にあるものですね。これ、毎年行っているんですけども、特にすぐれた地方